



# 労山ニュース ROSAN

〒162-0814  
東京都新宿区新小川町5番24号  
電話 03-3260-6331  
Fax 03-3235-4324  
E-mail jwaf@jwaf.jp  
HP http://www.jwaf.jp  
発行責任者 浦添 嘉徳

大井川流域（楓島と二軒小屋の間）に作業員宿舎を建設



全国労山のリニア問題対策委員会は9月11～12日、大井川流域で実施されるリニア工事による南アルプスの自然破壊について第3回目（17年第1回、18年2回目）の現地調査を行つた。リニア本体のトンネル工事は、静岡県知事がトンネル工事による掘削土・残土置き場などの許可を下ろしていないため行われていないが、工事作業員宿舎、資材置き場、生コンのプラント施設などの工事が行われている。

畠瀬ダムからの林道は、舗装されておらず普通車でもすれ違うのに苦労する悪路で、ダンプなどの大型車が来るところ違える場所を

大井川流域（楓島と二軒小屋の間）に作業員宿舎を建設

全国労山のリニア問題対策委員会は9月11～12日、大井川流域で実施されるリニア工事による南アルプスの自然破壊について第3回目（17年第1回、18年2回目）の現地調査を行つた。リニア本体のトンネル工事は、静岡県知事がトンネル工事による掘削土・残土置き場などの許可を下ろしていないため行われていないが、工事作業員宿舎、資材置き場、生コンのプラント施設などの工事が行われている。

## 主な記事

■ 8面

■ 7面

■ 6面

■ 5面

■ 4面

■ 3面

■ 2面

事故事例に学んで

安全な登山を楽しもう

リニア工事は南アルプスの自然破壊

若手クライミング講習会

全国女性集会・山筋ゴーゴーなど

（4面に続く）

## リニア新幹線 大井川源流域を現地調査 全国労山

# 作業員宿舎建設などで南アの貴重な自然破壊が進む

探してバックするなどを繰り返しながらの調査だった。

帰る途中運送会社のトラックとすれ違ったが、すれ違う

スペースの場所までバックしていると、助手席から一人おりてきて、「蒸留所に行くのは、この道でいいのでしょうか。時間はどのくらいかかりますか」と訊ねてきた。「1時間ぐらいかかる」と答える

と、「こんな道を！一時間も！」といつて絶句し、「あ

## 大井川源流域の状況は

「りがとうござります」といつて走つていった。  
工事が本格的に実施されると、二軒小屋周辺で毎日約480台、楓島周辺で約330台のダンプなどが行き交い、登山者も非常に不便なことになることは必至である。

二軒小屋の先、中部電力の西俣発電所に行く狭い道路は一部がコンクリート化の作業が行われている。

悪沢の上流部には、作業員宿舎が建設される予定になつており、その場所へ電気を供給するため、電柱が建てられ電線が張られていた。

（4面に続く）

救助・捜索費用は1000倍に

全国労山内の山岳遭難事故は、毎年300名前後の事故が発生している。この頃の事故で特徴的なのは、ダニによる事故の急増、猛暑による熱中症の事故が増加しているが、事故の内容をみると、安全意識の欠如がみられ、安全対策を強化することが求められている。

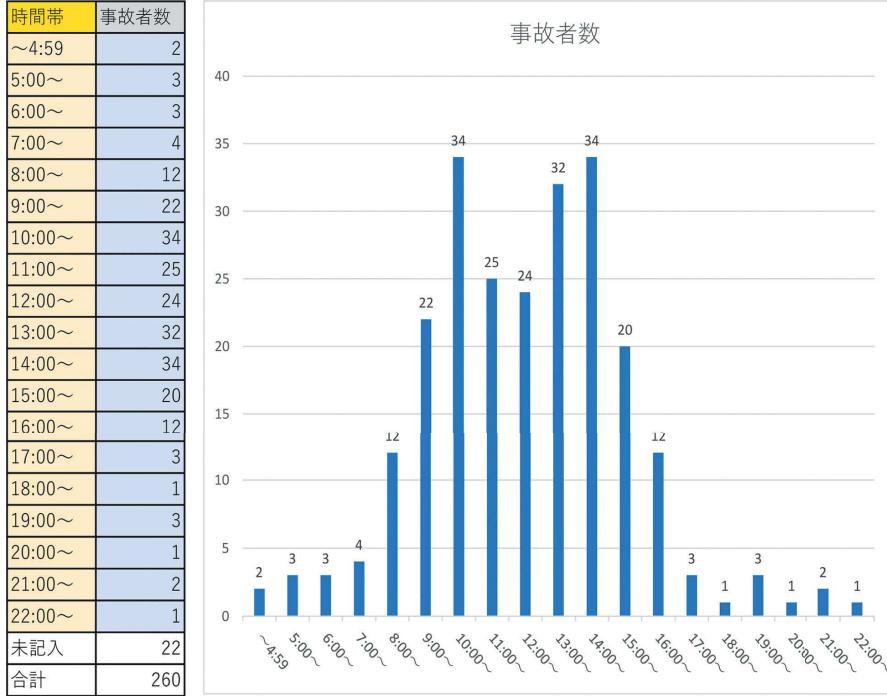
## 毎年300名前後の事故が発生

2019年1月から10月までの事故の概況について分析し、この事故事例から学ぶべきことを整理してみた。最終的な報告は2020年1月の総会になるが、現時点での状況から参考にしてもらいたい。安全登山に繋げて頂きたい。

全国労山内では毎年300名前後の事故が発生しているが、10月5日現在、260名の事故が発生、そのうち死亡者は4名。全員が60代以上が163名で約6割を占めている。前年は20

現時点での事故者数は男女ほぼ同数となっている。

事故者数と事故発生時間帯



## 安全登山コーナー

### 事故例から学んで安全な登山を楽しもう

全国理事・遭難対策部員 石川 昌

が、組織数からは発生率が高い状況だ。

### 事故のピークは10時と14時頃

時間帯別の事故者数をみると、前年の事故の発生時間は11時と14時がピークだったが、今年は10時と14

代の事故者が3名だったが、現在までは7名と増加、年代別では人数は少ない

時にピークが変動している。

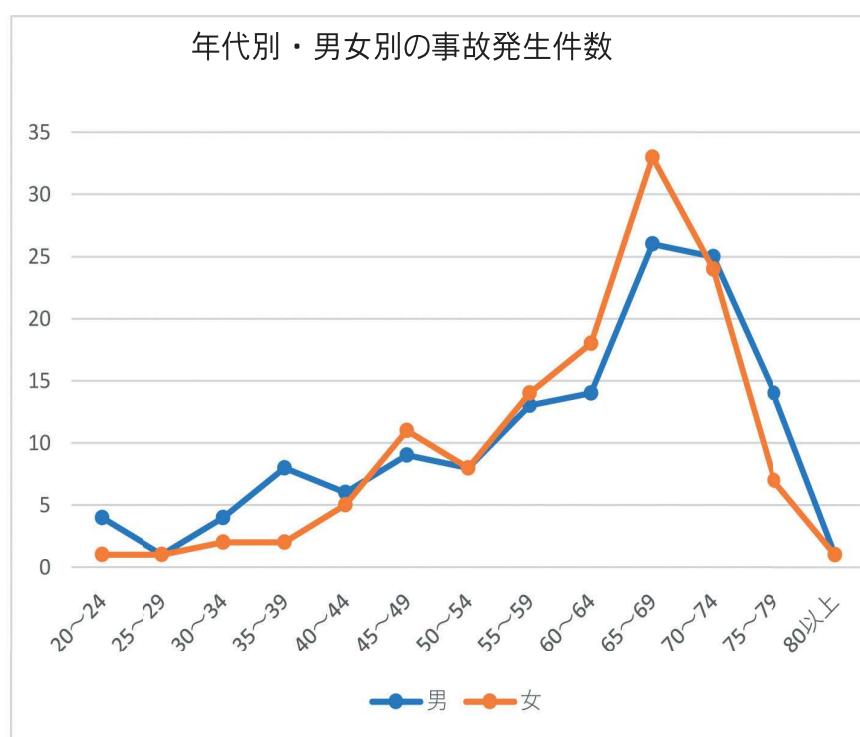
山行形態による事故発生をみると、沢登りの事故は減少し、前年は50名の事故だったが今年は31名となっている。前年は沢での死亡事故が多発したが、今は沢での死亡事故はない。

人工壁でのクライミングの事故は今年11件で前年に比べ増加傾向にある。原因別の事故は、転倒、転・滑落で前年同様7割を超えており、特徴的なのは、虫や動植物が原因の事故の増加だ。特にダニによる事故が13名（前年5名）と急増している。また、今年は異常な暑さが続いたが山でも熱中症での事故事例が2名あった。

転落・滑落により多発性外傷や頭部損傷で亡くなつている。男女別でみると男性3名、女性1名で、2名が積雪期縦走と冬期登攀、2名が無積雪期の縦走だ。各会からの事故の検証結果は2019年が終了した後に全国でとりまとめることになる。

転落・滑落により多発性外傷や頭部損傷で亡くなつている。男女別でみると男性3名、女性1名で、2名が積雪期縦走と冬期登攀、2名が無積雪期の縦走だ。各会からの事故の検証結果は2019年が終了した後に全国でとりまとめることになる。

年代	男	女	小計
20~24	4	1	5
25~29	1	1	2
30~34	4	2	6
35~39	8	2	10
40~44	6	5	11
45~49	9	11	20
50~54	8	8	16
55~59	13	14	27
60~64	14	18	32
65~69	26	33	59
70~74	25	24	49
75~79	14	7	21
80以上	1	1	2
合計	133	127	260



## 事故の約4割が下山時に発生

事故は下山時に起きる事が統計的に明らかになつてゐる。今年の事故の状況をみると、96名が下山時の事故に遭つており、約4割が

行の中で発生している。これは、主催者・講師、リーダーの安全意識と対策が問われる問題でもある。

今年9月に起きた会・クラブが講習費用をとつて主催した岩トレ講習会では、同日に2名の事故が発生している(10時と15時)。専門の講師に頼んだ講習会で同日に2名の重大事故が発生する事例は、安全意識・対策に大きな問題を含んでい

る」と考えられる。

毎年、何件か発生する事故を無くすには、安全面を重視した訓練、講習を積み上げると共に登攀用具の基本的な取扱いについての再確認が必要だ。現在までの事故の概要についてまとめてみたが2019年終了後に遭難対策部会としての事故の検証を行い、傾向と対応策を検討することになつてゐる。

各都道府県連盟・会クラブの行事や登山学校、例会山行、岩登り教室、訓練登山での事故も多く発生しており、今年は29名が事故に遭っている。これらは、主催者及びリーダーが注意を喚起していれば、起こさないかもしれません。本来、起きていなければ山

行の中で発生している。これは、主催者・講師、リーダーの安全意識と対策が問われる問題でもある。

事故を無くすには、安全面を重視した訓練、講習を積み上げると共に登攀用具の基本的な取扱いについての再確認が必要だ。現在までの事故の概要についてまとめてみたが2019年終了後に遭難対策部会としての事故の検証を行い、傾向と対応策を検討することになつてゐる。

グ、人工壁での事故が45名だつた。事故の内容をみると、①支点を構築中にバランスを崩して滑落、②終了点近くでつかんだカムが外れて落下、③下降点のハーネン2本が抜けて落下、④終了点付近で懸垂下降に移行する時に落下、⑤懸垂下降時に振られて負傷、⑥懸垂下降時にロープがすっぽぬける等で、ひとつ間違えれば死亡などの重大事故に繋がる事例が見られた。これらは、安全に対する基本的な意識と対応が希薄になつてゐることが考えられる。

# リニア新幹線工事は 南アルプスの自然豊かな生態系に 大きな影響を及ぼしている

昨年調査の時は、悪沢のすぐ下の道路が土砂崩れで100メートルほど埋まっていたが、トラックが通れるほど土砂は取り除かれていた。しかし、大雨が降ると土砂崩れで通行不能になる可能性は大で、作業員が閉じ込めら

れてしまうことになる。

作業員宿舎建設予定地には、リニアのトンネル工事の掘削土・残土を運び出すための坑口が二か所掘られようで、その場所に看板が立つていた。



大井川最奥の源流域は、リニア工事の現場事務所が



大井川最奥の源流域（二軒小屋の奥）に、リニアのトンネル工事が行われる



登山者の冬季小屋は作業員専用の宿舎に

## 二軒小屋の状況は

登山者が宿泊することができた冬季登山小屋は、作業員宿舎となり、玄関には、「作業員宿舎」と記され、「関係者以外立ち入り禁止」の張り紙が貼ってあった。その他に作業員宿舎も増設、建設事務所も建設され、

## 二軒小屋と榎島の中間部の状況

作業員宿舎建設予になっていた大木は伐採されて作業員宿舎が建設され、すでに4棟建っている。また、作業員のための食堂、入浴設備、生活排水処理施設などの基礎工事が行われている。宿舎はワンルームで三



大木は伐採、河川敷に積み上げられている

建設作業のトラックの駐車場、建設資材置き場となっている。また、作業員のための食堂も設置、賄の女性が泊まり込みで働いていた。

二軒小屋は、作業員宿舎と重機置き場に



静岡県の染谷絹代三島市長は、2014年にリニア工事予定地を視察して「物資運搬、生活排水、通信環境（現在は携帯電話圏外）等の整備を考えただけでも、その規模に圧倒されました」（静岡新聞）と話している。

大井川源流域は、約700人（サポートの人も含めると1000人以上になると思われる）が宿泊する作業員宿舎が建設された。

## 資材置き場と化した テントサイト



椹島には登山者のためのテントサイトがあつたが、すでに資材置き場と化している。白旗史郎写真館の前の狭い場所になっている。

### 白旗史郎写真館 1階は資材置き場に



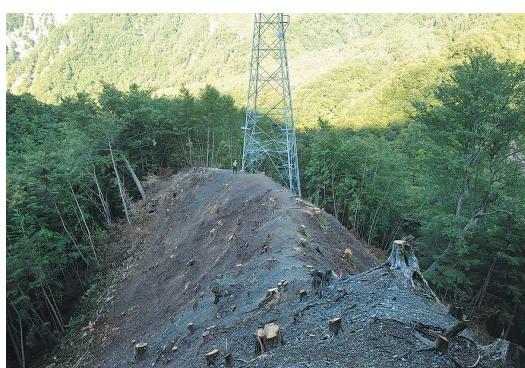
白旗史郎写真館の1階は資材置き場。開館はしているらしく……。

椹島のヘリポートの横に工事事務所とJR東海の現地事務所の2棟が建っている

山岳写真家の白旗氏は、「トンネルを掘れば地下水の流路に必ずぶつかる。至る所にあるせせらぎはどうなるのか。生態系や固有の

自然豊かな大井川源流域に、作業員が生活する生活排水の処理で塩素消毒が行われることについて、専門家の中で大井川源流域の固有種などの貴重な生物に大きな影響を及ぼすのではないかと危惧されている。

この議論で、「生態系に影響を与えることがないのか」との質問が出されたが、JR側は「適切に対応する」「モニタリングを行う」などと答えるだけだった。



この掘削土・残土について、JR側は下流への影響がないとしているが、塩坂邦雄委員（土木学会特別上級技術者）が「何をもつて、JR側は下流への影響影響がないと判断したのか」との質問に、JR側は

椹島の白旗史郎写真館は、1階部分は資材置き場になっていた。

椹島ロッジに聞くと開館しているというが、見た目にはそとは思えない。

静岡県は9月12～13の両日、リニア新幹線工事による大井川の水資源や生態系について検討する中央新幹線環境保全連絡会議を開き、県の中間報告書に対するJR東海の最終回答について協議した。

県が大井川の水を全量戻

すことを求めたのに対し、JR側は、全量戻すことを明言しなかつた。

県の難波副知事は、大井川の水が全量戻るかわからいのでは、工事を進めるわけにいかないこと。県としては受け入れられないことを強調した。

燕沢付近の河川敷には、長さ800m、高さ50m、幅150～200mに亘つてトンネルの掘削土・残土が積み重ねられる予定になつていて、河川敷に茂っている大木が伐採される。

JR側は「適切に対応する」「モニタリングを行う」などと答えるだけだった。

## 静岡県、このままではリニア工事は承認できない

### 中央新幹線環境保全連絡会議

即答できず、最終的に「現地の状況からそう判断した」と答えるだけだった。



白旗史郎写真館の1階は資材置き場。開館はしているらしく……。

# 若手のクライミング講習会

報告・全国連盟理事 三瓶 健

全国連盟・青年学生委員会 玉県奥秩父・小川山で開催。活動として実施している「若手のためのクライミング講習会」を10月20～21日、埼

玉県奥秩父・小川山で開催。全国から20代～50代前半までの15名(男性7名、女性8名)が参加、マルチピッチク

ライミングを

目標にした。

初日は、午

前9時から顔

合わせと机上

講習を行つ

た。登り始め

る前に、クラ

イマーとビレ

イヤーがお互

いに安全を確

認し合う「コ

ンパニオン

チェック」は、

基本中の基本

なので、クラ

イミングギア

を装着して、不備や不具合

がないかをチェック。クライミングにおける基礎知識・技術(ギア、支点作成、懸垂下降およびバックアップ、登り返しなど)を紹介

し、練習した。

午後は4班に分かれて、「ストリームサイド」エリアで机上講習の内容を岩場で実践。新しい技術を習得しようと試行錯誤する講習生の姿が印象的だった。

夕食は、川上山荘の名物「無国籍料理」。お酒もドリンクやスパークリングワインなど豊富で、就寝までの間、皆で楽しく山の話で盛り上がった。

2日目は、廻り目平キャンプ場に移動、班ごとに分かれ、スタートしたが、岩が濡れていて登れそうにならないので、フェニックスの岩場などで前日の復習を行つ

た。昼近くに青空も見え、岩も乾いてきたので、4班中3班は、マルチピッチのルート「春の戻り雪」へ。クライミンググレードとしては易しいが、支点が少なくランナウトするため、確実な登攀が求められるので講師がリードした。

支点作成の注意点などをレクチャーしながら、ルートに取り付いた全員がトップアウト。登攀中は晴れ間も広がり、秋の小川山でのクライミングを満喫した。

クライミングは登つて終わりではなく、無事に下降しなければならない。懸垂下降は一つのミスが致命的な事故につながる。講習生には、懸垂下降にはより一層の注意を払うよう強調。どんな状況でも落ち着いて確実にシステムをセットし、下降できることが必要であることを伝えた。

残る1班は、フェニックスの大岩で引き上げのシステムなど、初日に出来なかつた内容を学んだ。



講習生は学習意欲が旺盛で、やり甲斐があった。講習会は各地方連盟の若手世代をつなぐのが狙いで、和気藹々と登っている様子で、その目的も達成できたようだ。

半面、講習生の多くは一つひとつ技術が不確実で、「危ない!」という状況も多々あつた。それは、①マルチピッチの懸垂下降中に、セルフブレイブをセッティングせずにデバイスを解除しようとした②ロープがかなり緩んだ状態のままフォローで登ってきたーなど。

クライミングは楽しい遊びだが、同時に非常にリスクの高い行為で、「なぜこの技術が必要なのか」「この状況ではどのような行動をすれば、自分の、パーティの安全を守れるのか」、常に想像力を働かせてリスクをコントロールして欲しい。

## 第9回 全国女性交流集会 in 和歌山

### 登山で輝く女性たち

全国女性交流集会が、和歌山県連盟主幹で10月26日

～27日に開催された。全国連盟から浦添理事長、和歌

山県連盟の山下会長が挨拶、久保女性委員長が基調報告を行った。

集会に参加した県連盟

は、岩手、栃木、東京、埼玉、

静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、奈良、鳥取、岡山、広島、徳島、香川、長崎、和歌山の17都府県で、参加者は約120名だった。

豊田ふみよ氏の「登山で

輝く女性たち」の講演は、科学的な観点を取り入れた、理解しやすい素晴らしいものだった。

### 山筋ゴーゴー体操講習会各地で開催

全国連盟は、登山のための体力作りに「山筋ゴーゴー体操」の全国的な普及

をはかつてている。これに応じて、各地開催されている。

10月8日、東京都連盟主催の講習会

が東京都品川区で石田良恵氏を講師に開かれ、8会40名



### スマホ活用術で 全国ハイキング学校

が参加した。

10月19日(土)、全国連盟会議室を会場に、労山基金の関東地区実務担当者を対象にした説明会が開かれ、栃木、埼玉、千葉、神奈川、東京の各地方連盟の会から29名が参加した。

参加者は、労山基金への加入や寄付金の納付、交付金の申請手続きなど基金運営の要を担っているが、数年で担当が変わるので、実務の習熟に向け毎年全国の各ブロックを順番に巡り説明会を開いている。

事務手続きの流れ、申請のポイント、交付事例の説明のあと、具体的な疑問点が質疑された。また、基金設立の経緯や理念、運営内

### 労山基金・関東地区実務担当者説明会

#### ココへリとの提携に高い関心

容、近年の基金規定・細則の改定も説明した。

今年6月、「ココへリ」に加入する基金会員の救助・捜索の交付倍率を1000倍に改定したことに関連し、「ココへリ入会の窓口がわかりにくく、登山時報、HPなどでのアナウンスがほしい」「ココへリの賠償責任の保証と個人賠償責任プランの違いを知りたい」など、質問や要望が多く寄せられた。そのほか、捜索活動に

関わる質問や入・通院にわける交付の改善要望、事例集など解説資料の要望などが寄せられた。寄せられた意見・要望は、運営改善の検討材料として生かしたい。

試み。だが、受講生のレベルやアプリ問題などがあり、講習内容が不十分とな

り、参加者に不満を残し、主催者の準備不足だった。

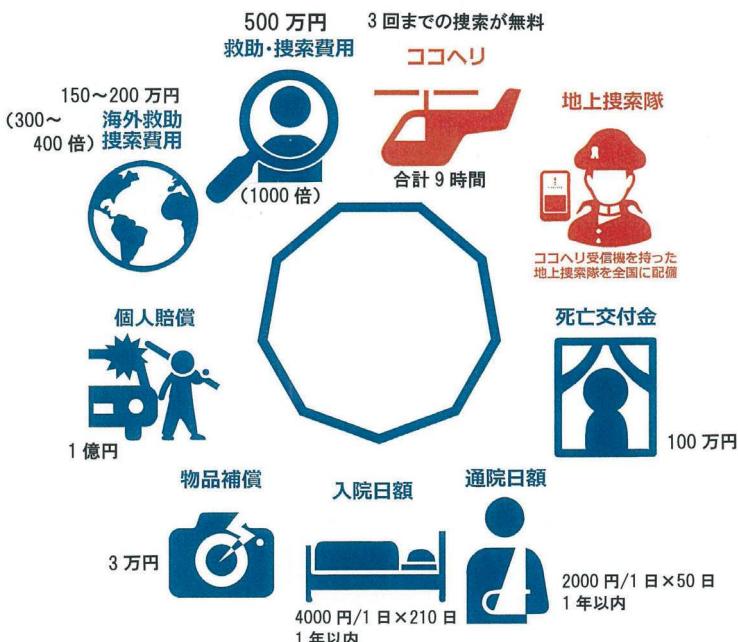
## 労山基金 5口 + ココヘリ加入の場合

補償内容							搜索体制	
救助・搜索費用	海外救助搜索費用	個人賠償	物品補償	入院日額	通院日額	死亡	ココヘリ	地上搜索隊
※1 500万円	※2 150~200万円	1億円	3万円	※1 4,000円	※1 2,000円	※1 100万円		

年額 8,650円

ココヘリ年会費  
3,650円含む

※1 労山基金1口 1,000円×5口加入の場合  
※ココヘリ会員は「救助・搜索交付金限度額=寄付金登録申込額×1,000」となります。  
※2 初年度300倍、継続1年ごとに10倍加算。最高400倍。5,000m以上の高所登山は加入から1年以上経過してから有効となる。



## 労山基金

# ココヘリとの連携で（入会金は無料） 救助・搜索費用は1000倍に

全国労山は、労山基金の改善をおこなつた。そして、ココヘリとの連携で、6月から①ココヘリの入会金（3000円）は無料、会員の救助搜索交付金は1千倍（海外登山等は通常通り）、

②ココヘリ労山搜索隊を創設し隊員を募集している。

### ココヘリで 会員が救助される

昨年は「ココヘリ」通報

による労山会員の救助が3件連続して発生した。今年の6月9日に労山会員の行方不明事故が皇海山付近で発生。栃木県日光警察署は「ヒトココ」の親機を持っておらず、雨天でへ

死亡事故となつた。8月2日、黒部川の祖母上から搜索したが、遭難者は子機を持参していなかつた。4日後に発見されたが死亡事故となつた。

8月2日、黒部川の祖母谷温泉へ下る途中で、道迷った。4日後に発見されたが死亡事故となつた。

8月2日、黒部川の祖母谷温泉へ下る途中で、道迷った。4日後に発見されたが死亡事故となつた。

8月2日、黒部川の祖母谷温泉へ下る途中で、道迷った。4日後に発見されたが死亡事故となつた。

## ココヘリ労山搜索隊の活動

ココヘリ労山搜索隊は、

ココヘリ労山搜索隊は常

に親機を携帯することを条

件とする。その活動は、雨天

や夜間など「ココヘリ」が出

動できない時間帯に「遭難

搜索専用窓口」に搜索要請

があつた場合、「ココヘリ」

本部からの出動依頼に基づ

いて、現地の搜索隊へ「ヒト

ココ」親機を届ける。もしく

は現地の搜索隊とともに

「ヒトココ」親機で地上から

搜索を手伝うもので、原則として救助は行わない。



労山搜索隊の隊員登録が完了すると、帽子が配布される

魅惑的な  
労山カレンダーは  
まだ在庫があります